

みどころいっぱい鳥取砂丘

① 鳥取砂丘ジオパークセンター



鳥取砂丘の生立ちを、標本・映像を用いて展示・紹介しています。ジオガイドが常駐しており、鳥取砂丘の見所や散策コースを案内しています。また、風紋発生風洞では、風紋のでき方を観察することができます。(問)0857-22-0021

② 馬の背(第2砂丘列)とオアシス



鳥取砂丘には3つの砂丘列があり、北西側から2番目のものが第2砂丘列(馬の背)です。第2砂丘列南側の凹地には湧き起源の小川が流れ込み、オアシスと呼ばれ、季節的に池が出現します。夏季には小川の水が浸み込み、尻無川となります。

③ 火山灰露出地



砂丘地内の所々に見られる黄土色の層は、約5万5千年前に大噴火した大山火山の火山灰(軽石層)です。この露出地は飛砂で埋もれたり、また顔を出したりで、いつも同じ場所で見られるとは限りません。

④ 追後スリバチ



鳥取砂丘では、湾曲した稜線をもつ急斜面で囲まれたすり鉢状の凹地が見られ、「スリバチ」と呼ばれています。「追後スリバチ」は鳥取砂丘を代表するスリバチで、以前は凹地底部に湧き水があった記録が残っています。

⑤ 合せヶ谷スリバチ



「追後スリバチ」の南西側に位置するスリバチです。その斜面には、ハマヒルガオやコウボウムギなどの植物が多く見られます。

⑥ 一里松・有島武郎歌碑



大正12年に、鳥取市を訪れた有島武郎が鳥取砂丘で詠んだ歌が碑面に彫られています。側に生えている松は、江戸時代に砂丘を横切る旧街道(但馬往来)の一里松として植えられました。

⑦ 弁天宮(多鯰ヶ池)



多鯰ヶ池(たねがいがけ)には、宮ノ下(現鳥取市国府町宮ノ下)の長者に仕えていた「お種」が、蛇身に化けて島の柿をとったという「お種伝説」が伝わっています。池の北岸の大島には、水を司る弁天さまが祭られています。

⑧ 鳥取砂丘砂の美術館



世界初の砂像展示専門の美術館。毎年テーマを変えて、世界トップレベルの彫刻家による作品を制作展示しています。鳥取砂丘周辺の観光案内及び地元特産品を集めた売店も併設されています。(問)0857-20-2231

⑨ 火山灰層露頭



約5万5千年前に大噴火した大山火山の火山灰と、その上下の火山灰質土壌が観察できます。これらの下に見える砂層が古い砂丘(古砂丘)であり、上にある砂層が現在の砂丘(新砂丘)です。

おすすめ：与謝野晶子・有島武郎歌碑



有島武郎が、鳥取砂丘を訪れてから1ヶ月後になくなったことをしのび、1930年に鳥取砂丘を訪れた与謝野晶子が詠んだ歌が、有島の歌と並んで刻まれています。

おすすめ：鳥取大学乾燥地研究センター アリドドーム



乾燥地の砂漠化防止の研究が行われ、その資料・標本が展示されています。また、アリドームでは世界の研究施設とネットワークを結び、乾燥地のシュミレーション実験を行うことができます。

おすすめ：ラッキョウ畑



鳥取砂丘の一部(福部砂丘)は、日本有数のラッキョウの生産地です。約120ヘクタールの畑は、10月下旬から11月上旬にラッキョウの花が咲き、赤紫色のじゅうたんを敷き詰めたような美しい光景が広がります。

ジオコラム①

火山灰が堆積した時代の環境

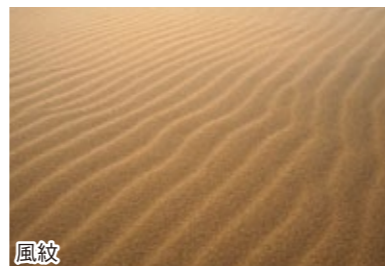
鳥取砂丘の地下には、約5万5千年前に大噴火した大山火山の火山灰(大山倉吉軽石)や、約9万年前に噴火した阿蘇山(熊本県)や約10万年前の三瓶山(さんべさん)(島根県)の火山灰が堆積しています。大山倉吉軽石の上部には、約2万5千年前の始良丹沢(あいらたんざわ)火山灰(鹿児島)の存在が知られています。これらの火山灰が堆積した時代は、ウルム氷期と呼ばれる氷河期で、現在よりも海面が低かった時代です。したがって、当時の海岸線は沖合いにあり、現在の鳥取砂丘は内陸部にあったこととなります。当時の砂丘は植物で覆われていたかもしれません。



ジオコラム②

砂丘に見られる微地形

鳥取砂丘では、風紋以外に、砂簾(されん)、砂柱といった微地形が見られます。砂簾や砂柱の形成には、雨が大きく関係しています。降雨によって湿った砂は、通常よりも急な斜面を作り、この斜面が乾き、崩れることで砂簾ができます。また、風雨によって砂表面に形成される砂よりも細かい粒(シルト)の層が風食の抵抗となり、砂柱を形成します。さらに、雨上がりで強風が吹いた時には、湿った砂と乾いた砂の帯が交互にでき、砂丘全域に縞模様(風成横列シート)風景が展開します。乾燥地ではなかなか見られない、鳥取砂丘ならではの光景です。



風成横列シート



砂簾

クイズの答え

- ①おおよそ30度
- ②間に挟まれる大山倉吉軽石層などの火山灰層によって、両者の上下関係が明確であるから。
- ③おおよそ17m